

## こどもの「髄膜炎」について 知っておきましょう

千葉県こども病院感染症科 くさの たいぞう 草野 泰造 医師

**こども急病電話相談**

受診するべきかどうか迷ったら

**#8000**

**毎日夜7:00～翌朝8:00**

※相談は無料ですが、通話料はご負担いただきます。

ダイヤル回線・IP 電話・光電話・銚子市からは

☎043 (242) 9939

### Q1 髄膜炎とはどんな病気なの？

髄膜炎は、脳や脊髄を包む膜（髄膜）に炎症が起きる病気です。原因のほとんどは細菌やウイルスで、特に細菌が原因の場合は進行が速く、命にかかわったり後遺症が残ることがあります。そのため、早めに気づいて治療することが大切です。

髄膜炎の原因はお子さんの年齢によって異なります。

#### ・ 新生児（生後28日以内）

大腸菌やB群溶血性連鎖球菌（GBS）が多く、出産時にお母さんから感染することがあります。



#### ・ 乳幼児や小さな子ども

肺炎球菌やインフルエンザ菌が原因となり、咳やくしゃみで感染します。



#### ・ 年齢が大きい子ども

エンテロウイルスやムンプスウイルス（おたふくかぜ）が多く、細菌性より重症化しにくい傾向があります。



### Q2 どんな症状が出るの？

髄膜炎の初期症状は風邪に似ていますが、進行すると次のような症状が出ることがあります。

- ・ 高熱、頭痛、吐き気、ぐったりして元気がない

- ・ 首を動かすのを嫌がる（首が硬くなる）
- ・ 意識がぼんやりする、反応が鈍い
- ・ けいれん
- ・ 乳幼児では、泣き止まない、授乳を嫌がる、不機嫌になる

こうした症状が見られたら、迷わず病院を受診してください。

### Q3 予防するには？

細菌性髄膜炎の多くはワクチンで予防できます。Hib ワクチン、肺炎球菌ワクチン、5種混合ワクチンを定期接種として受けることで、重症の細菌性髄膜炎をほぼ防ぐことができます。実際、ワクチンの普及により細菌性髄膜炎は大幅に減少しています。

### 県民の皆さまへ

まだワクチンが十分に接種できていない小さなお子さんは、特に注意が必要です。残念ながらワクチンで防げない髄膜炎もあります。お子さんが「いつもと様子が違う」と感じたら、早めに病院で相談してください。

保護者の早い行動が、お子さんの命を守ります。

私たち小児科医も、保護者の「直感」による早めの受診に大きく助けられています。

